

## 2. 教育本部執行方針（案）

昨年同様、厳しい経済情勢が続く中で、各事業がより多くの会員ニ - ズに応えられよう積極的に努力して参ります。ここ数年実施しております指導員研修会における「指向別研修会」の内容を見直し、その充実に努めます。

千葉、静岡、山梨県スキ - 連盟との共催事業を増やし、会員の技術交流、役員交流、運営ノウハウの研鑽等幅広い活動を推進していきます。活性化委員会の答申を重視し、新規会員の掘り起こしに取り組みます。また、専門委員のレベルアップによる会員へのサービス向上」は基本方針とし継続して取り組みます。

「スキ - 本来の楽しさをたくさんの方々に味わって頂たく」を 基本に以下の活動を展開致します。

各事業の充実について

- ・教育本部の専門委員は、指導員研修会、講習会等において講師を担当し、参加者に大きな影響を与えます。研修会、講習会が会員にとって楽しくレベルアップが図れるものにするために、技術的なレベルアップが必要です。技術強化合宿、検定員としての資質の向上に取り組み、内容のある研修とするため努力致します。
- ・現状の指導員研修会、検定員クリニック及び指導員養成講習会等の内容について教育本部の企画運営、指導、検定、強化の各委員会で分析し改善に努めます。

選手育成と技術選手権大会の運営について

- ・全日本スキ - 技術選手権への決勝進出を目標に、強化合宿などを見直し、選手の強化に努めます。
- ・神奈川県・千葉県スキ - 連盟共催のスキー技術選手権大会は技術交流等大きな成果をあげており、さらに参加者を増やすと共にスム - スな運営に努めます。
- ・環富士山スキー技術選手権大会（神奈川、静岡、山梨共催）（1都8県参加）は、オ - プンな大会として位置づけ、底辺の拡大を図ると共に他県との技術交流を深め選手育成に努めます。また、教育本部専門委員の参加を呼びかけ、各個人のレベルアップを図ります。

北海道行事について

- ・総務本部と連携しながら若手指導員、専門委員を活用し、昨年規模以上の行事となるよう更に内容を検討します。その一環としてクラウン・テクニカルブライズ講習検定会（A）を北海道行事で新たな試みとして実施致します。

ハンディキャップ（HC）スキー講習会及びレベルアップ講習会について

- ・HCスキー講習会、級別テストはHC委員会が中心となり実施します。今後もHC委員会の行事運営を後援し、連携を図ります。
- ・レベルアップ講習会は将来とも県下のスキー普及拡大に寄与すると思われま。PRの方法など検討し、参加者を増やす努力を致します。

競技本部との連携強化活動について

- ・昨年来進めております教育本部専門委員の競技大会への応援は更に進め、競技本部専門委員との相互乗り入れも視野に入れ、活動できるよう競技本部と連携を強めます。